

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年7月23日

### 【評価実施概要】

事業所番号	2875201317		
法人名	有限会社ユイックス		
事業所名	西神中央グループホーム		
所在地	神戸市西区竹の台6丁目4-2 (電話) 078-993-6663		
評価機関名	株式会社H. R. コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年6月20日	評価確定日	平成19年8月10日

【情報提供票より】 (平成19年5月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 9月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤 16 人, 非常勤 10 人, 常勤換算12,	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	4階建ての	2~4階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	94,500 円	その他の経費(月額)	6,615 円
敷金	有( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 400,000円 ) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	367 円	昼食 525 円
	夕食	円	おやつ 105 円
	または1日当たり	0 円	

### (4) 利用者の概要 ( 月 日現在 )

利用者人数	27 名	男性 4 名	女性 23 名
要介護1	7	要介護2	7
要介護3	8	要介護4	2
要介護5	3	要支援2	0
年齢	平均 85.5 歳	最低 78 歳	最高 98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	由井クリニック 佐野伊川谷病院 広野高原病院
---------	------------------------

### 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

周辺地域は高層マンションとともに公共施設や商業施設が多数存在し、近代的なニュータウンの風情が感じられるなか、ホームの周りは緑豊かで四季の花々が植えられ、自然の美しさと都市空間がうまく調和する環境にある。開設当初から地域との関わりを大切に、地域の中で入居者が自分らしく暮らせるよう支援し、地域密着型サービスとしての役割が、日々の暮らしの中で自然に果たされている。また経営者が医師で施設長や管理者は看護師の資格を有し医療連携体制が整い、入居者の日頃の健康管理とともに、24時間体制で緊急時や重度化に対し連携が密にとれるよう取り組んでいる。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 評価結果はミーティングや学習会等で検討し改善へ向け取り組み、内容等については運営推進会議等で地域や家族に報告している。評価結果を公表する事により、多方面から問い合わせ等もあり、グループホームの役割を理解してもらおう機会となっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 自己評価委員会が中心となって取り組み、職員一人ひとりが、自らのケアの振り返りや日常業務を見直す機会となり、ケアの質の向上に反映できるよう努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 現在までに3回開催し、入居者や家族の参加もあり活発な意見交換が行われている。運営推進会議での提案を取り入れ職員間で検討後、建物玄関付近に掲示板を設置し、ホームの現状や健康面等の情報を掲示する取り組みを実施している。その結果、地域住民のホームに対する理解や親しみが増し、交流が更に深まっている。多くの家族に会議への関心を持ってもらう為に、開催日程等について案内文を配付し参加を促している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8) 家族の面会時に入居者の状況を報告し、担当職員が文書等で入居者の近況を連絡する機会もある。金銭管理は月に1回出納状況を家族に送付している。重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、ホーム内に意見箱の設置がある。苦情や相談はミーティング等で話し合い、内容に応じて家族参加のカンファレンスを開く機会もあり解決に向けて取り組む姿勢がある。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目④	夏祭りや近隣の催しへの参加・ショッピングセンターでの買物等、地域へ向う積極的な関わりを持つよう支援すると共に、近隣の人たちの協力により傾聴・音楽療法・ドッグセラピー等ボランティアを受け入れ交流が継続して行われている。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の意向を尊重し、心豊かな暮らしを支援していく為の理念を掲げている。開設当初から地域との関わりを大切に、地域の中で入居者が自分らしく暮らせるよう支援し、地域密着型サービスとしての役割が、日々の暮らしの中で自然に果たされている。	○	現在は、地域密着型サービスとしての理念の言語化が明確でない為、具体化された内容の理念を作り上げ明示していく事を検討している。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット毎のミーティング・朝礼・研修・学習会において理念について話し合い、職員一人ひとりが各自のケアに反映できるよう意識づけができています。重要事項説明書の表紙・玄関・エレベーターホールに分りやすい形で理念を掲示し浸透を図っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや近隣の催しへの参加・ショッピングセンターでの買物等、地域へ出向き積極的な関わりを持つよう支援すると共に、近隣の人たちの協力により傾聴・音楽療法・ドッグセラピー等ボランティアを受け入れ交流が継続している。散歩や花壇の手入れ時などに近隣の人の気軽な声掛けがあり、ホームの暮らしの中で自然な形で地域の人々との交流を大切にしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果はミーティングや学習会等で検討し、改善へ向けての取り組み状況を運営推進会議などで地域や家族に報告している。自己評価は、自己評価委員会が中心となり、職員一人ひとりが日常業務を振り返り見直す機会となる様取り組んでいる。評価結果を公表する事により、多方面からの問い合わせ等もある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在までに3回開催し、入居者や家族の参加もあり、活発な意見交換が行われている。より多くの家族に会議の意義や役割を理解してもらう為に、会議の開催についての案内を文書で配布し参加を促している。運営推進会議での提案を取り入れ職員間で検討後、建物玄関付近に掲示板を設置し、ホームの現状や健康面などの情報を掲示する取り組みを実施している。その結果、地域住民のホームへの理解や親しみが増し、交流が更に深まっている		
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	3ヶ月に1回開催の西区のグループホーム連絡会に行政からの参加があり、ホームの活動状況を伝え意見を聞く等、連携を図る体制が整っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時に入居者の状況について報告するよう取り組んでいる。金銭管理については月に1回出納状況を家族に送付している。	○	家族との協力体制や信頼関係を維持するために家族会を定期的で開催し、更にきめ細かな報告や意見交換ができる事を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し入居時に説明している。ホーム内に意見箱の設置がある。家族が気軽に相談しやすいよう、面会時での声かけや対応に配慮し、運営推進会議への家族の参加を促す等の働きかけがある。苦情や相談についてはミーティング等で話し合い、相談の内容に応じて、家族参加のカンファレンスを開き、解決に向けて取り組む姿勢がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症の特性を踏まえ入居者や家族に不安や不満が生じないよう配慮し、馴染の関係を継続する為に、人事異動は極力避けるようにしており、入居者の状況に応じた勤務ローテーションを組んでいる。やむを得ず異動がある場合は、家族への報告や引き継ぎ等、個々の心理面に配慮した対応を心掛けている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・認知症介護実践研修等外部研修を職員のキャリアに応じて受講し、研修内容については報告会を開き職員全体で情報共有している。内部研修として学習係りが中心となり、研修計画をもとに月に1回学習会を開き職員の質の向上に努めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会等を通して他グループホームの見学や研修生・実習生の受け入れを行っている。</p>		
<p><b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前の事前面接で本人・家族と話し合い、「入居前面接情報用紙」を作成し、本人の性格・意向等の情報を収集している。入居前にホーム見学を実施し、他の入居者とお茶を飲む等交流の場を提供し、職員と無理のない範囲でのコミュニケーションが図れるよう努め、馴染みややすい雰囲気作りに配慮している。</p>		
<p><b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b></p>					
13	27	<p>○利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者主体のケアに配慮し、ホームの暮らしの中で、入居者を人生の先輩として尊び、入居者との会話の中や家事を一緒に行う時などに入居者より教わり学ぶ姿勢を大切に接している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や日常での入居者と接していく中で、本人の今までの生活環境や今後の要望・意向を把握するよう努め、ホームでの生活のペースや居室での過ごし方等、本人の希望に沿えるよう支援している。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者がその人らしく暮らせるよう家族から情報を聴き、状況に応じてスタッフ・家族等を交えて話し合い、必要に応じてインフォーマルサービスをケアプランに位置づけ、地域の中で暮らし続けるための計画作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月～6ヶ月に1回現状に即した介護計画の見直しがなされている。日々の様子を個別に記録し急な変化にも対応できるように臨機応変に計画の変更を実施している。	○	今後は安定しているような入居者の場合も、月に1回程度定期的な見直しを期待する。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして積極的に24時間の健康管理を実施している。また、入居者や家族の状況に応じて通院や送迎、訪問リハビリ等必要な支援は柔軟に対応している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医への受診となっている。医師である経営者が毎日専門医受診の必要性等家族と話し合いながら適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方を早い時期から関係者と話し合いを繰り返し、その時々本人・家族の意向を確認しながら対応方針の共有を図るよう努めている。また、重度化に伴う意思の確認書を作成し、ホームが対応し得る最大のケアについて説明を繰り返し行うようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底するよう研修会や勉強会の中で実施している。併設のデイサービスと一緒に新聞を作成しているが個人が特定できないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、散歩のコースを選んだり、おやつの内容を決めたりしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	オリエンタルホテルの献立とは別に入居者と一緒に一品料理・おやつ等を買物から調理まで行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴している。介助を必要とする場合は週3～4回の入浴となっている。時間も21時まで可能とし、お湯の温度も好みの温度で、入浴方法も半身浴、入浴剤の使用等、入居者の生活習慣や希望に合わせて入浴できるよう配慮している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	行事の食事作りや花壇の手入れ、おしぼり巻き等、入居者の生活歴の中から一人ひとりの楽しみごとや役割を見つけ出し、入居者と話し合いながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を肌で感じてもらえるようまた、心身の活性につながるように買物や散歩を日課としている。歩行困難な方も車椅子を利用して対応している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の状況に応じて鍵をかける時もあるが、鍵をかけないで支援していく努力をする意識や姿勢がある。	○	職員が手薄になる時も安全を確保しながらの、鍵を掛けない工夫を重ねていくことを期待したい。



第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員間の緊急連絡網を作成し、年2回避難訓練を実施している。	○	地域の協力体制について、職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、運営推進会議等で災害対策に対する理解を求め協力体制を築いて行くことに期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的にオリエンタルホテルに委託しているが、献立や味については入居者の好みを伝え、状態に応じて食材をきざんだりトロミ材を使用し個別の食の支援に努めている。季節の行事等は入居者の好みの食事を一緒に作り、食が楽しくなるよう取り組んでいる。また、一日全体で、栄養や飲水量がどの程度摂れているかチェックしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間である玄関には季節の花々の寄せ植えを置き、居間にはソファ、入り口には椅子を置き居心地のよい場所になるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物を置き、その人が安心して暮らせるような居室作りができるよう支援している。居室には、仏壇や使い慣れた家具が入居者の好みで配置され居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。